

～ 【 部活への誇りと覚悟 】 ～

昨年度はコロナ感染予防のためにそれまで慣例とされていた、管理職の応援、会場回りが取り止めになりました。教職員時代の半分のエネルギーを部活動に投入してきた私にとっては、生徒の頑張りを安心メールでしか知ることのできないもどかしさでストレスが非常に高まりました。

今年はそうした縛りが解除され、試合会場に出かけ、思う存分子ども達の頑張りを直に見ることができ、とても嬉しく思っています。今日まで野球部、バレー部、サッカー部の試合を見ることができました。

野球。ピッチャーが1球投げる度、バッターがスイングする度、グッと緊張が高まりました。「ストライク」と「ボール」、「ヒット」と「ファール」、一試合に緊張と弛緩が何度も繰り返され、応援している私達でさえ、神経がくたびれるのに、選手たちはその何倍もの重圧に耐え、神経を研ぎ澄ませているのだろうと思いました。

バレーボール。他の球技と異なり、ボールが地面についたら終わり、のスポーツです。6人が文字通り心をついにし、厳しいコースのボールでも体を張って取りに行き、次の人にパスしなければなりません。誰かが少しでも弱気になったら、途端にチーム力が低下し、点数がぼかすか取られるスポーツです。選手同士の信頼関係が最も問われる競技だと思いました。

サッカー。ボールだけでなく、数秒後の味方の位置、敵の位置を一瞬で把握し、ボールをつなげ、シュートに持っていく。とてつもなくたくさんの情報を処理しながらプレーしなくてはなりません。それだけではありません。相手がボールを持ったら、スライディング等体を張って取りに行かねばなりません。頭脳プレーと格闘技の要素を同時に備えているスポーツだと思いました。

そして明日から始まるソフトテニス。前衛、後衛の二人組で戦うスポーツです。後衛選手がどこにボールを打ったら、おそらくこのあたりに返球されるだろうから、との読みで前衛選手はそのポジションに入り、スマッシュ、ボレーで得点しなければなりません。コートの中では家族以上の信頼関係がなくては戦えない、勝てないスポーツです。ペアの相手の長所、短所、まるごと理解し、互いに支え合う人間性が問われます。同時に狭いコートの



【選手推戴式：サッカー部】

中でもラケットを振りぬいてドライブショットを打つことのできる思い切りの良さも求められます。

こうした4種目だけみても、それぞれに奥深さと難しさを秘めていることが分かります。生半可な気持ちでは到底上達できません。中体連で一勝するだけでも実は大変なことなのです。

本校の部活にはこの他にも剣道、弓道、柔道、バスケットボール、水泳、文化部に吹奏楽、美術があります。それぞれの部に入っている生徒は、自分が打ち込んでいる種目に誇りをもっていますか。誇りを持っているなら、自分が打ち込んでいる種目は、どんなスポーツ(芸術)で、どんなところがきついで、どんなところがすばらしいと、自分の言葉できっと表現できると思います。

再び還らぬ、大切な中学時代の、貴重な時間をつぎ込んでいる部活動です。入部した以上、誇りを持って練習に打ち込み、最後の中体連で「負けても悔いなし!」の試合で部活動生活を終わってほしいと思います。

最近、無断休部や場合によっては担当の先生に虚偽の理由を言って帰る生徒がいると聞きました。

部活動は誰かが頼んで入部してもらったわけではありません。自ら進んで入部したはずで、中途半端はよくありません。お父さん、お母さんも、日々しっかり練習に打ち込んでくれるだろうとの思いがあるからこそ、毎月部費を支払っていただいていると思います。

私が保護者の立場で、自分の子どもがサボったり、何やかんやで部活に行かず帰ってくる日が頻繁に続くようだったら迷わずに「きちんと練習に行くか、退部せよ。お金ももったいない。」と思うと思います。(もちろんけんかやトラブル発生の可能性もあります。その時は遠慮なしにご相談ください。早めに、深刻化する前にお願います。)

部活動ではチームメイトや担当の先生が待っているのです。みんなが待っているのに欠席が続くと、練習も、チーム編成も、試合登録にも支障をきたすのです。責任ある行動とは言えません。

中体連が終わったら2年生が主力になる季節を迎えます。その前に自問自答してください。自分は自分の種目に誇りを持っているのか、打ち込んでいるのか、来年の中体連では先輩を超えようとする覚悟があるのか、と。



【選手推戴式：バレー部】